

## きょうと☆いきもの調査～（第二弾）みんなでドングリを調べよう！～ 報告書

きょうと生物多様性センター

### ➤ 概要

きょうと生物多様性センターでは、参加者の皆様が、身近な自然や生きものを通して、生物多様性に関する理解の向上を図るとともに、生きものの生息・生育情報を蓄積することにより、京都の自然の豊かさ等を分析し、生物多様性保全の取組に活用するため、住民参加型のいきもの調査を実施しました。調査では、身近な生きものであり子供たちも大好きな「ドングリ」について発見報告を募集しました。

### ➤ 調査対象

京都府内で見られるドングリの仲間（クヌギ・クリ・アラカシなどのブナ科の植物）

### ➤ 調査期間

令和6年9月～令和6年12月

### ➤ 報告方法

「京 みやこ ・生きものミュージアム」内にある報告フォームより報告。

### ➤ 結果

報告件数：51件 種数：14件（不明5件）

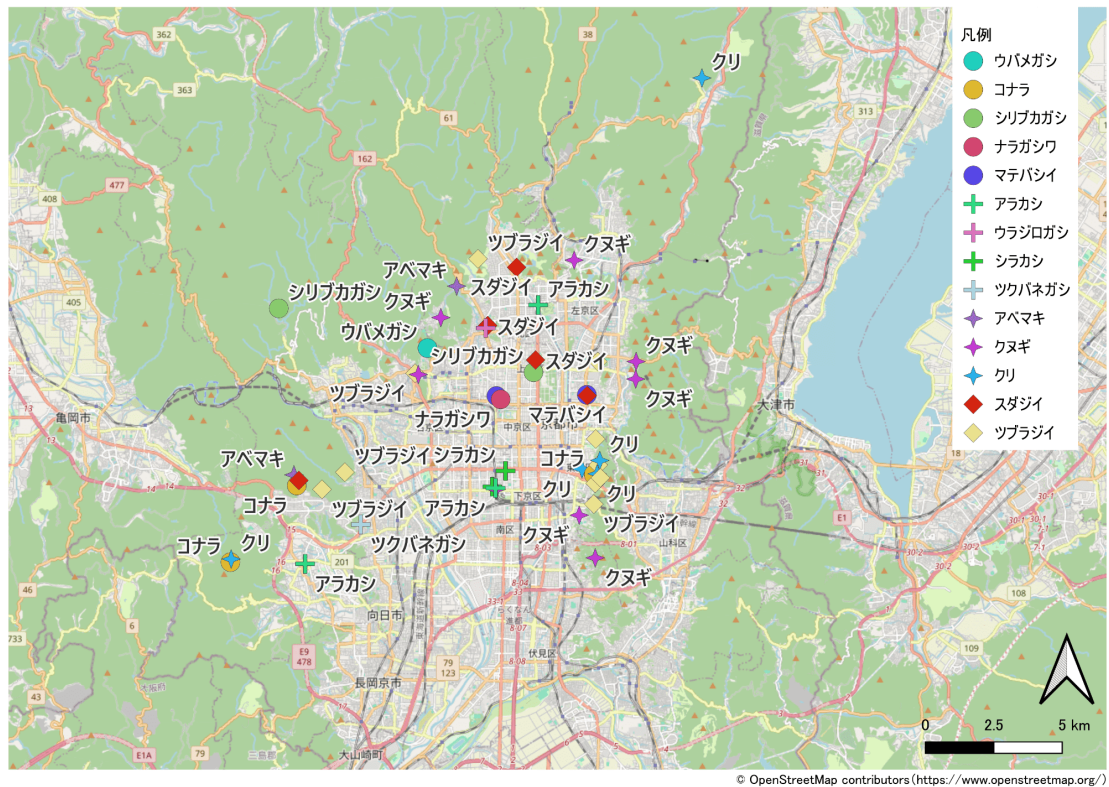
#### <各種類別の報告件数>

種類		報告数		
		R6	(参考)R5	(参考)合計
トゲトゲ	アベマキ	2	0	2
	クヌギ	8	3	11
	カシワ	0	0	0
	クリ	5	1	6
シマシマ	アラカシ	3	6	9
	シラカシ	2	1	3
	ウラジロガシ	1	1	2
	イチイガシ	0	2	2
	ツクバネガシ	1	0	1
	アカガシ	0	2	2

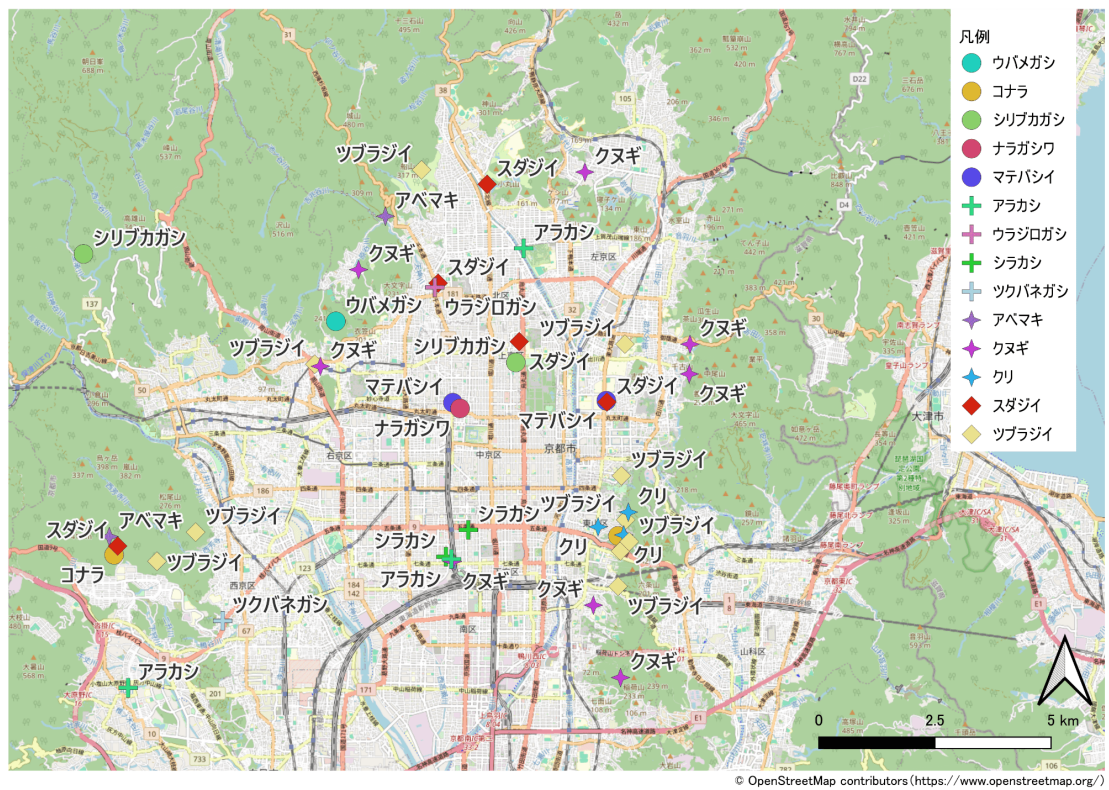
ピスタチオ	ツブラジイ	10	1	11
	スダジイ	5	5	10
	ブナ	0	0	0
	イヌブナ	0	0	0
ウロコ	シリブカガシ	2	3	5
	マテバシイ	2	5	7
	コナラ	3	0	3
	ウバメガシ	1	3	4
	ナラガシワ	1	1	2
	ミズナラ	0	0	0

<報告場所>

- ・全域：令和 6 年

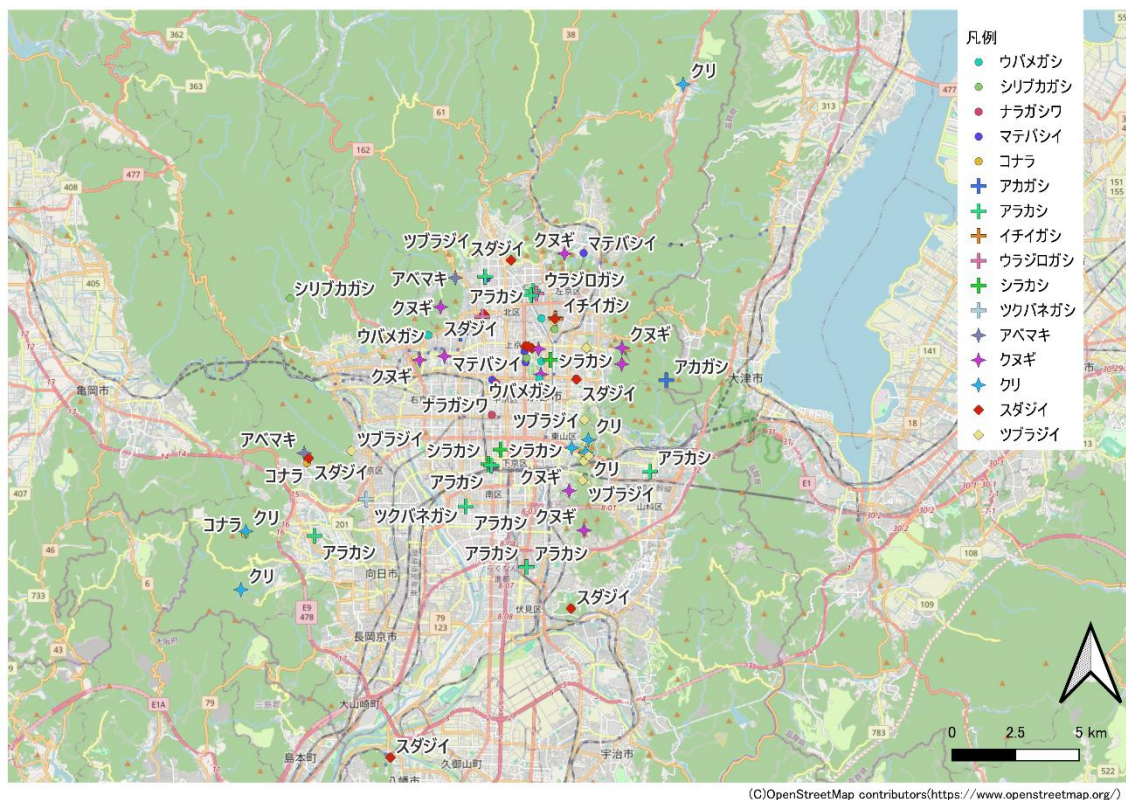


- ・市内中心部拡大：令和 6 年

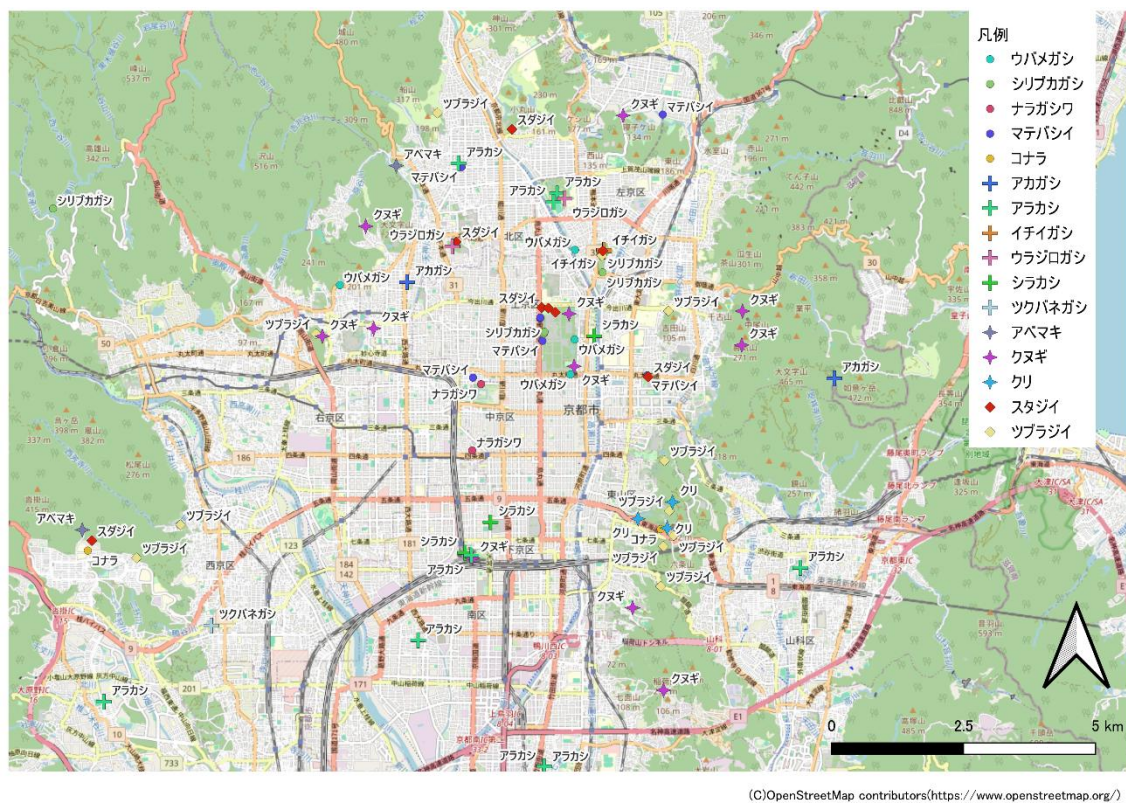




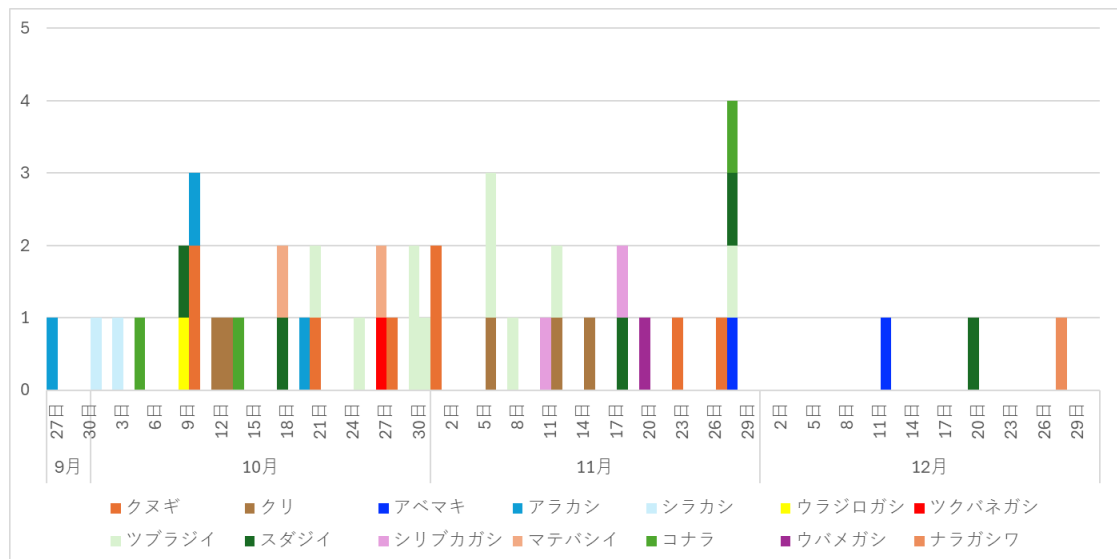
・ 全域：令和 5 年、6 年統合地図



・ 市内中心部拡大：令和 5 年、6 年統合地図



<報告時期と件数：令和6年>



調査期間中、46件14種の報告があった。もっとも報告の多かった種はツブラジイ（10件）であり、続いて、クヌギ（8件）、クリ（5件）、スダジイ（5件）であった。ツブラジイの報告は街中に近い森林エリア（東山、西山など）からの報告が多く見られた。令和5年度の調査では、京都市市街地の緑地（京都御苑、寺社、植物園など）からの報告が多かったが、令和6年度は森林エリアからの報告も多数見られた。前年度報告の多かったアラカシは3件と少なく、クヌギやクリの報告数は増加していた。報告のあった緑地が限定的であった令和5年度と比べると、令和6年度は報告場所が散らばっており、場所の違いが報告種別の違いの要因になったと考えられる。報告の時期については、令和5年同様、10月、11月の報告が多かった。

不明を除く、令和6年、5年の合計80件の報告データからは、アラカシ、シラカシなどのカシ類は市街地内の公園や神社などの小規模な緑地、ツブラジイやクヌギ、コナラ、クリなどは市街地周辺の森林部などからの報告が多いことが分かった。スダジイやイチイガシの報告場所については、その多くが社寺林や庭園からの報告であった。スダジイは社寺林でよく観察され、また庭園でもよく使用される樹種である。社寺林は神社などを取り囲むように存在している森林のことであるが、古くからその姿を維持していることも多く、こうした緑地が様々な生物の棲家となる。例えば、アオバズクなどは社寺林の大木を棲家としていることも多い。ドングリは身近な樹木であるとともに多くの生物にとっても重要な種であり、生物多様性の把握につながることから、今後も継続してデータの蓄積をしていくことが重要である。

以上